

インタビュー

ヤマハロボティクス(株)
代表取締役社長

中村 亮介氏

ヤマハロボティクス(株)
(東京都港区)は、ヤマハ発動機グループにおいて、半導体後工程装置などを扱う企業が統合する

中村 ヤマハ発動機では、ボンディング装置などを扱う(株)新川、モールドینگ装置や金型などを手がけるアピックヤマ

ハロボティクスホールディングス、新川、アピックヤマダ、PFAの4社が1つになるかたちで7月にヤマハロボティクスが誕生した。

強化することも検討している。

中村 コア領域向けでは、高速・高精度ワイヤーボンディング装置「UTC-RZ1」と、マルチプロセスモールドینگ装置「MS-R series」を投入した。

UTCRZ1は面積生産性が従来機種に比べて37%向上し、省エネ性能や自動化性能も高めた。

当社には幅広いユニークな技術があり、その技術をベースにしながら変化が激しい半導体業界のニーズに素早く対応するために、共創活動にも力を入れていきたいと考えて

半導体の需要増によって当社製品の販売も増加した。25年度前半も同様の傾向が継続しており、25年度通期では24年度(売上高344億円)の水準

した。そして長野県千曲市にある拠点において、モールドینگ装置や金型の生産能力を4倍に拡大

後工程ソリューションを総合提供

25〜27年の設備投資は2.2倍を計画

統合を機に半導体後工程のトータルソリューション企業としてさらなる飛躍を目指す。今回、代表取締役社長の中村亮介氏に話を伺った。

人財の採用や育成、強い経営基盤の構築なども加速する。事業面では、コア領域(一般半導体)をベースにしたが

育成、強い経営基盤の構築なども加速する。事業面では、コア領域(一般半導体)をベースにしたが

MS-Rは、生産性と精度が高く、狭ギャップ成形などを実現している。成長領域では、パネルレ

おり、先端半導体分野に取り組んでいる企業、大学、研究機関や、AIを用いた検査技術など先端技術をお持ちの方で、当社の取り組みとともに進めていただける方がい

は。生産面での施策は、ボンディング装置などを製造する西東京事業所(東京都武蔵村山市)にて、24年に生産能力を従来比約4倍に拡大

大し、25年にはさらに生産能力を上げていく。また、海外でもタイにある生産拠点において、従来はワイヤーボンディング装置のみを生産していたが、ダイボンディング装

中村 ボンディング装置などを製造する西東京事業所(東京都武蔵村山市)にて、24年に生産能力を従来比約4倍に拡大

中村 ヤマハ発動機グループは、世界の人々に新たな感動と豊かな生活を提供する「感動創造企業」を目指しており、そのなかでヤマハロボティクスは「ロボティクスで感動をのびる」をミッションとして掲げている。ヤマハ発動機ブランド、半導体、ロボティクスという3つのキーワードを掛け合わせることで、成長を期待できる非常に面白い会社になると考えており、今後は半導体後工程のトータルソリューション企業としての存在感をさらに高めていき、新市場の開拓やM&Aも検討しながら30年代に売上高1000億円を目指していく。



の最大化を図り、半導体後工程のトータルソリューション企業として飛躍するために、ヤマ

の最大化を図り、半導体後工程のトータルソリューション企業として飛躍するために、ヤマ

の最大化を図り、半導体後工程のトータルソリューション企業として飛躍するために、ヤマ

の最大化を図り、半導体後工程のトータルソリューション企業として飛躍するために、ヤマ

の最大化を図り、半導体後工程のトータルソリューション企業として飛躍するために、ヤマ

の最大化を図り、半導体後工程のトータルソリューション企業として飛躍するために、ヤマ

の最大化を図り、半導体後工程のトータルソリューション企業として飛躍するために、ヤマ



UTC-RZ1



MS-R series

中村 ヤマハ発動機グループは、世界の人々に新たな感動と豊かな生活を提供する「感動創造企業」を目指しており、そのなかでヤマハロボティクスは「ロボティクスで感動をのびる」をミッションとして掲げている。ヤマハ発動機ブランド、半導体、ロボティクスという3つのキーワードを掛け合わせることで、成長を期待できる非常に面白い会社になると考えており、今後は半導体後工程のトータルソリューション企業としての存在感をさらに高めていき、新市場の開拓やM&Aも検討しながら30年代に売上高1000億円を目指していく。

(聞き手・編集長 稲葉 雅巳/副編集長 浮島哲志)